

【教育目標】

国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等、変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。

【重点目標】

① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

② 実践的教育の充実・強化

③ 多様な進路に向けた学生指導の充実

④ 学生の自主活動の活性化

【達成度】の基準

A 目標を上回っている

B 目標通り進捗している

C 目標を下回っている

重点目標：① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	達成度
〈 現状 〉 ・平成22年度以降は出願者が概ね定員を超えて推移していたが、今年度は定員を下回った。 ・普通高校や非農家からの入学が増えている。 ・女子学生の割合が高くなる傾向にある。 〈 課題 〉 ・農業に対する意欲の高い学生の確保 ・多くの出願者から選ばれた優秀な学生の確保	オープンキャンパス、学校訪問、イベント、ホームページなど様々な機会やツールを活用した農大に関する情報発信 入試出願者数の増加及び優秀な学生確保	〈 方策 〉 ○年2回のオープンキャンパス開催とオープンキャンパス以外の個別見学者の積極的受入 ○学校訪問(学生募集)の実施 - 農業高校への学校訪問及び学生募集 - 農業高校・普通高校等を対象とした進路ガイダンスへの参加 ○広報活動の推進 - 市町、農協、普及センター及び高校等に対する農大のPR活動 - ホームページによる情報発信 - オープンキャンパスを含む各種イベント開催の記者発表 - 各種イベントへの参加及びその場でのPR活動 〈 指標 〉 ・オープンキャンパス参加者：60人以上 ・オープンキャンパス参加者に対するアンケートでの農大入学希望：7割以上 ・県内の高校で開催される進路ガイダンスに赴いての学生募集：10校80人以上 ・入学試験出願者数：定員40名以上 ・ホームページによる情報発信：月2回以上	○オープンキャンパスの実施 - 回数は前年と同じ2回の開催(8/1・17)であった。内容は参加者が急増した昨年度と同様としたが、参加者は昨年度を大幅に下回った。 H27 61名→H28 81名→H29 55名 アンケート調査では36名(65.5%)が農大に入学したいとの回答であった。 - オープンキャンパス以外の個別見学等にも積極的に対応した。 H27 6回→H28 8回→H29 4回 ○学校訪問による学生募集の強化 - 県内の高校で開催される進路ガイダンスの場に赴き、農大への進学を強くPRした。 H27 14校86人→H28 17校122人→H29 11校80人 ○広報活動の推進 - 学校案内、募集ポスター及び学生募集要項を市町・農協・普及センター等関係先に配付した。(6月) - ホームページでの情報発信は、システム上の問題で更新が困難だったが、1月に復旧した(入試情報は掲載)。 H27 37回→H28 8回→H29 15回 - オープンキャンパスや収穫祭などの主要なイベントの開催を記者発表した。 H27 16回→H28 17回→H29 18回 H29 新聞等への掲載 9回 - 新しい農業を目指す高校生等の集いに参加し、農大と各農高の学生が意見交換を行った。(11/16) - 農大収穫祭(11/18・19)及び県民農林漁業祭(10/21)等に参加して農大をPRした。 - 農業高校教育研究会(4/27)行政・教育連携推進会議(12/13)で高校長へ紹介した。 - 普及センターへ後期試験出願について依頼した。(1月) ○出願者数の減少 - 競争率が0.9倍になった。 - 出願者数 H27 54名→H28 76名→H29 36名 36名内訳(推薦18、前期15、後期3) 女性6 - 競争率 H27 1.4倍→H28 1.9倍→H29 0.9倍	農業大学校における教育内容の広汎な周知 ・進路ガイダンスでのPR ・農業高校をはじめとする県内の高校への訪問・学校案内や学生募集要項を活用した学校説明 ・市町、JA、普及センター等を対象としたPR活動の継続・拡充。 ・オープンキャンパスの内容の再検討・充実(説明で映像資料を活用する等) ・ホームページや動画紹介、マスメディアなどのツールを利用した情報発信の強化。 ・HPやパンフレット等、学校案内の更新	C

C

重点目標：② 実践的教育の充実・強化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	達成度																																																																
〈 現状 〉 - 普通高校出身者の増加に伴い、入学時に学生間の農業に関する知識・技術の格差が拡大している。 - 教育目標・方針に沿ったカリキュラム編成を毎年見直している。 - 実習を重視した実践的な教育を行っているが、キャリア教育が不十分 - 資格の積極的な取得を奨励しており、主要な資格には担当職員を充てて濃密な指導を行っている。また、大型特殊自動車運転免許や家畜人工授精師等は実習に組み込んでいる。 〈 課題 〉 - 農業の基礎学力の充実と学生の技能・知識の向上 - 教育目標・方針に基づく実践的な農業教育の実施 - 専修学校として特色ある学校づくりを推進 - 卒業論文課題研究の中に経営的な視点を入れ、厳しい農業情勢の中にたくましく発展的な農業経営を続けるノウハウや信念を養成する必要がある。	農業の基礎的・基本的知識の確実な習得と学力向上 資格試験・検定試験のチャレンジ、合格率向上	〈 方策 〉 - 各種事業や制度を利用した実践型教育を強化するための環境整備 - 基礎学力向上への取組：1 学年末には農業に必要な計算、文書読解、文書作成を履修 - 教務会議でのカリキュラム検討、教育課程の編成 - 実習計画の十分な検討、計画に基づく実習実施 - キャリア教育を実施（コミュニケーション能力、ペン習字、ビジネスマナー教育） - 多くの機会を捉え資格取得を奨励する。 - 直売施設（夢花菜）や県民農林漁業祭、収穫祭等での販売体験を通じて、原価計算や経営管理能力を養う。 〈 指標 〉 資格・検定試験の合格者・合格割合の目標 - 大型特殊免許（農耕）：卒業生全員合格 - 農業機械利用技能者：7 割合格 - 指導農業機械利用技能者：5 割合格 - 毒劇物取扱責任者：5 名以上合格 - 危険物取扱者：10 名以上合格 - 農業技術検定 3 級：全員合格 2 級：7 割合格 1 級：1 名以上合格 - 家畜人工授精師：畜産課程全員合格 - フォークリフト、アーク・ガス溶接、小型車両建機：全員合格 - 全国プロジェクト発表会での発表、上位入賞 - 懸賞論文応募：5 名以上 ※ 過去の受検・合格状況から目標値を設定	○特色ある学校づくりを推進するため、昨年度に引き続き、6 次産業化教育の充実強化を図った。 ソフト対策：実習の時間を活用した加工施設での試作 ハード対策：農産加工食品製造に係る営業許可の取得(12 月) ○外部講師による読解力強化の講座を新規に設けた。 ○実践型教育を強化するため、JA 共済連兵庫からの寄贈による農業実習用機械の整備を行った。（11 月） 多目的田植機 1 台、ハウス内環境制御システム 一式 いちご高設栽培(兵庫方式培地昇温抑制技術) システム 一式 これにより、最新の機械・施設を使った教育が充実した。 ○実践型教育を強化するため、集落営農組織の協力を得て、田植え実習を行った。（6 月、2 回） ○学業等奨励制度により学生の意欲を向上させた。 - 知事賞、校長賞授与：成績、学習態度が優秀な学生 - 同窓会長賞：成績優良かつ欠席、遅刻等がない勤勉な学生 - 鶏梨会学生支援奨励：資格・免許取得数の多い学生 ○直売施設（夢花菜 毎週金曜）を始め、県民農林漁業祭への出店や農大収穫祭において、生産物の販売実習を行った。 ○プレジール（全農兵庫直営レストラン）の兵庫県フェア(6 月)に食材を提供することで生産物販売及び農大の PR を行った。 ○新たに整備された牛舎への移転を行い、畜産の実践教育環境が向上した。（5 月） ○大型特殊免許の補講、追試験の実施により 1 年生全員が取得した。 ○ヤンマー論文コンクールで銅賞を受賞、また全国農業大学校プロジェクト発表会で優良賞を受賞した。 <table><tr><th colspan="4">H29 卒業生の資格・免許取得実績</th></tr><tr><th>資格・免許 名称</th><th>受験 者数</th><th>合格 者数</th><th>合格率</th></tr><tr><td>大型特殊免許(農耕)</td><td>32</td><td>32</td><td>100</td></tr><tr><td>農業機械士</td><td>32</td><td>23</td><td>72</td></tr><tr><td>指導農業機械士</td><td>15</td><td>5</td><td>33</td></tr><tr><td>毒劇物取扱責任者</td><td>3</td><td>3</td><td>100</td></tr><tr><td>危険物取扱者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>農業技術検定 3 級</td><td>14</td><td>14</td><td>100</td></tr><tr><td>2 級</td><td>12</td><td>6</td><td>50</td></tr><tr><td>1 級</td><td>2</td><td>1</td><td>50</td></tr><tr><td>家畜人工授精師</td><td>5</td><td>5</td><td>100</td></tr><tr><td>フォークリフト</td><td>17</td><td>17</td><td>100</td></tr><tr><td>アーク・ガス溶接</td><td>5</td><td>5</td><td>100</td></tr><tr><td>小型車両建機</td><td>15</td><td>15</td><td>100</td></tr><tr><td>全国発表会での発表</td><td colspan="3">1 名(東海近畿第 1 位)</td></tr><tr><td>懸賞論文応募</td><td colspan="3">5 名</td></tr></table>	H29 卒業生の資格・免許取得実績				資格・免許 名称	受験 者数	合格 者数	合格率	大型特殊免許(農耕)	32	32	100	農業機械士	32	23	72	指導農業機械士	15	5	33	毒劇物取扱責任者	3	3	100	危険物取扱者	0	0	0	農業技術検定 3 級	14	14	100	2 級	12	6	50	1 級	2	1	50	家畜人工授精師	5	5	100	フォークリフト	17	17	100	アーク・ガス溶接	5	5	100	小型車両建機	15	15	100	全国発表会での発表	1 名(東海近畿第 1 位)			懸賞論文応募	5 名			非農家・非農業高校出身者に農業高校レベルの基礎的知識技能を早期に習得させる - 非農業高校出身者への高校レベルの講座新設 農産物加工施設を利用した 6 次産業化教育の強化。 - 農産加工実習の充実 - 製品の開発と販売 就農後直ちに実践できる農業技術・知識の習得 - 各種資格取得に向けた支援や意識付けの継続 - 一部の資格習得を選択実習から講座に変更 学生の意欲や習熟度を考慮した実践型教育の強化 - JA 共済連兵庫から寄贈された機械等を活用した、より高度で専門的な農業教育の実施 H30 に寄贈される予定の機械 スピードスプレイヤー （自走式薬剤散布機） バックホー - 新たな牛舎施設を効率的に活用した、安全かつ効率的な畜産の実践教育の実施。 - 機械整備等を実習する時間を定期的に実習中に設定（実習環境整備）	B
H29 卒業生の資格・免許取得実績																																																																					
資格・免許 名称	受験 者数	合格 者数	合格率																																																																		
大型特殊免許(農耕)	32	32	100																																																																		
農業機械士	32	23	72																																																																		
指導農業機械士	15	5	33																																																																		
毒劇物取扱責任者	3	3	100																																																																		
危険物取扱者	0	0	0																																																																		
農業技術検定 3 級	14	14	100																																																																		
2 級	12	6	50																																																																		
1 級	2	1	50																																																																		
家畜人工授精師	5	5	100																																																																		
フォークリフト	17	17	100																																																																		
アーク・ガス溶接	5	5	100																																																																		
小型車両建機	15	15	100																																																																		
全国発表会での発表	1 名(東海近畿第 1 位)																																																																				
懸賞論文応募	5 名																																																																				

重点目標：③ 多様な進路に向けた学生指導の充実

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	達成度																																							
〈 現状 〉 - 法律に基づく無料職業紹介事業により、進路担当者を定め、個々の学生に対する就職相談・指導に取り組んでいる。 - 非農家出身で生産基盤を持たない学生が増加しており、就農の形態も自営就農だけではなく、農業法人等への雇用就農が増加している。 - 直近5年間（H25～H29）の進路決定率は98％であり、就農率は36％、就職率は55％（うち農業関連産業等は47％）で、進学率は6％である。 〈 課題 〉 - 学生の進路決定率及び就農率の向上を図る。 - 卒業後の多様な進路に対応できる教育活動を実現する。	進路希望や就農・就職活動状況の把握 進路決定のための情報提供 卒業後の多様な進路に対応できる進路指導	〈 方策 〉 ○就職支援活動の強化 - インターネット接続環境整備による情報収集支援 - 面接・マナー講座を開催 - 職員の情報共有 - 就農希望者への特別教育の実施 - 農業次世代人材投資資金関係の説明会、相談会の開催 - 農業関連企業志望者への特別教育の実施 - 学生からの希望に応じたハローワーク等からの求人情報の収集と、模擬面接会等への参加を推進 - 兵庫県農業法人協会と連携した雇用就農への取り組み強化 〈 指標 〉 - 進路決定率：90% - 就農、農業関連企業内定率：80%以上	○ 1年生を対象に、農業法人派遣研修を実施（10/23～26のうち3日間 26日は台風により中止）雇用就農を受け入れている県内のJA等出資法人等3社での研修により雇用就農の実際を学んだ。 ○ 2年生インターンシップ（農家等派遣実習）の実施（8/31～10/9 40日間）先導的農家等で40日間の農業経営と農家生活を実践体験し、優れた経営感覚と豊かな農業観や職業観を学んだ。 ○姫路市と連携し、市内の先導的農家、法人への研修を実施した（12/12） ○ゆめファームを見学しJA兵庫六甲農業経営者育成塾の説明を受けた（1/31、2/16） ○農業法人協会による 1 年生を対象とした雇用就農に関する説明会の実施（1/15、2/6） ○ 上記の公式行事以外にも、3 日間から 1 週間程度の農家研修参加（希望者対象）、 ○ 個人面談の実施 校長 3 回、就職担当、専攻・担任による面接は随時行った。 ○ 面接・マナー講座の開催（4/19）採用試験前の面接練習は随時行った。 ○ 2 年生の進路決定に関する情報を職員間で共有 進路担当教員が、学生への就職紹介と合否を進行管理した。月 1 回の職員会議や随時開催の教務会議等で職員間の情報を共有した。 ○ ひょうご就農支援センター及び各農業改良普及センターと連携した新規就農希望者へのサポートを実施 ○ 就農予定者に対する支援施策等説明会の開催（9/1）農業次世代人材投資資金等の支援策に関する説明 <table><tr><td colspan="5">29 年度卒業生の進路内定（30 年 2 月末現在）</td></tr><tr><td colspan="2">卒業生</td><td>33</td><td colspan="2">内訳</td></tr><tr><td rowspan="2">就農</td><td>自営</td><td>1</td><td>11</td><td rowspan="2">28 (33%)</td></tr><tr><td>農業法人雇用</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td rowspan="4">就職</td><td>農協等団体</td><td>9</td><td rowspan="3">17 (52%)</td><td rowspan="4">28 (85%)</td></tr><tr><td>農業関連産業</td><td>7</td></tr><tr><td>公務員(農業関連)</td><td>1</td></tr><tr><td>その他産業</td><td>2</td><td>(6%)</td></tr><tr><td colspan="2">進 学 等</td><td>2</td><td>(6%)</td><td rowspan="2">5 (15%)</td></tr><tr><td colspan="2">未 定</td><td>1</td><td>(3%)</td></tr></table> 進路決定率：97％ 就農率：33％ 農業関連：17％	29 年度卒業生の進路内定（30 年 2 月末現在）					卒業生		33	内訳		就農	自営	1	11	28 (33%)	農業法人雇用	10	10	就職	農協等団体	9	17 (52%)	28 (85%)	農業関連産業	7	公務員(農業関連)	1	その他産業	2	(6%)	進 学 等		2	(6%)	5 (15%)	未 定		1	(3%)	早期からのキャリア教育の実施と、雇用就農に関する意識づけ - 専門家による職業選択に関する講座の開設 2 年生を対象にした農家派遣研修、1 年生を対象にした農業法人への派遣研修などインターンシップは継続実施 - 農家派遣研修のフォローアップを行う講座の開設 - 農業法人等への現地研修の増加 - 県農業法人協会と連携した就職相談会の拡大 多様な進路情報の提供 - ハローワーク支援員と連携した就職セミナー開催 - 就農予定者に対する支援施策等説明会の充実(実施時期・方法の検討)	B
29 年度卒業生の進路内定（30 年 2 月末現在）																																												
卒業生		33	内訳																																									
就農	自営	1	11	28 (33%)																																								
	農業法人雇用	10	10																																									
就職	農協等団体	9	17 (52%)	28 (85%)																																								
	農業関連産業	7																																										
	公務員(農業関連)	1																																										
	その他産業	2	(6%)																																									
進 学 等		2	(6%)	5 (15%)																																								
未 定		1	(3%)																																									

重点目標：④ 学生の自主活動の活性化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	達成度
〈 現状 〉 - 本校は全寮制であるため地震や火災発生、インフルエンザ等伝染病発生時の学生の安全性確保体制が随時の対応になっている。 - 寮内の整理整頓が不十分であり改善の余地がある。 - 収穫祭や東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会等の行事運営が、学生の自主的な活動で実施されていない。 - 学生間のトラブル等による学生処分事案が年数件発生する 〈 課題 〉 - 危機管理体制の構築 - 学生生活指導の充実改善 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現	危機管理対応の初動訓練等、安全確保対策の実施 学生生活環境の整備改善 社会規範意識を高め、基本的生活習慣の適正化	〈 方策 〉 - 震災、火災時の対応に役立つ防災訓練を消防署の協力のもと実施 - 交通、防犯、防災講座を通じ社会的ルールへの遵守 - 寮生活（自治会活動）を通して社会人としての心構えを学ぶ 講義受講態度、実習取り組み態度 自動車等使用許可、防犯・防災意識 健全な寮生活 - 学生自ら企画運営する農大収穫祭において販売実習を実施（再掲） 〈 指標 〉 - 学生活動の年間スケジュールによる計画的執行 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現	- 消防署の協力により、学生及び職員参加による防災訓練と消火訓練（5/9）を実施した。 - 警察署の協力により、交通安全講習会（4/19、7/14、12/20）を実施した。 1月下旬のインフルエンザ発生時（14名発症）は職員による受診支援と出席停止措置等により、重症者を出さず、早期に収束した。 - 地元自治会との学校周辺環境美化作業（5/19）や校内環境整備活動を毎月（年間12回）実施し、校舎・寮に対する美化意識を醸成した。 担当職員による寮内環境の定期的な点検、改善指導を実施した。 - 校舎及び寮内での喫煙場所や、浴室使用ルールの徹底など、学生自治会にルール遵守を指導した。 寮生活における遵守事項や連絡確認のための自治会集会を開催し、寮内で発生した問題を話し合った。 - 規則違反や問題行動をとる学生に対し、その都度教務会議で対応を協議、担当職員で情報を共有化し、指導の一体化を図った。 また、問題のある学生に対して個別指導を行い、反省と改善を促した。 - 学生相互の一体感醸成のために登山及びスケートを行事として実施した。 高御位(高砂市)登山（1年生 4/21） スケート（姫路セントラルパーク）（2年生 1/15） - 学校行事（スポーツ大会、農大収穫祭等）を通して、学生間の仲間づくりを進めた。 近畿・東海ブロック農大スポーツ大会（5/25-26） 青年クラブ意見交換会（6/23） 県民農林漁業祭（10/21） 和歌山県立大学校来校（8/2） みかた和牛会と農大生との交流会（11/6） 新しい農業を目指す高校生等のつどい（11/16） 農大収穫祭（11/18-19） 農業青年クラブ技術交換大会（11/28）	危機管理・健康管理対策の徹底 - 危機管理マニュアルの更新と徹底 - 体調異常の早期発見、対処等学生の健康管理の徹底 学校内外の環境整備 - 学校周辺の環境整備等のボランティア活動拡充 - 地元自治会活動、イベントへの学生自治会としての積極的参加 - 環境整備活動時間を増加し、寮の環境美化と快適な寮生活の実現 学生生活の充実・改善 - 自治会との連携・指導の強化・充実 - 学生の自主活動推進のため外部機関による研修等の実施 - 登山等のレクリエーション要素を取り入れた行事の実施による、学生の団結力強化	A